

岡山県の地震

令和7年(2025年)1月

目 次

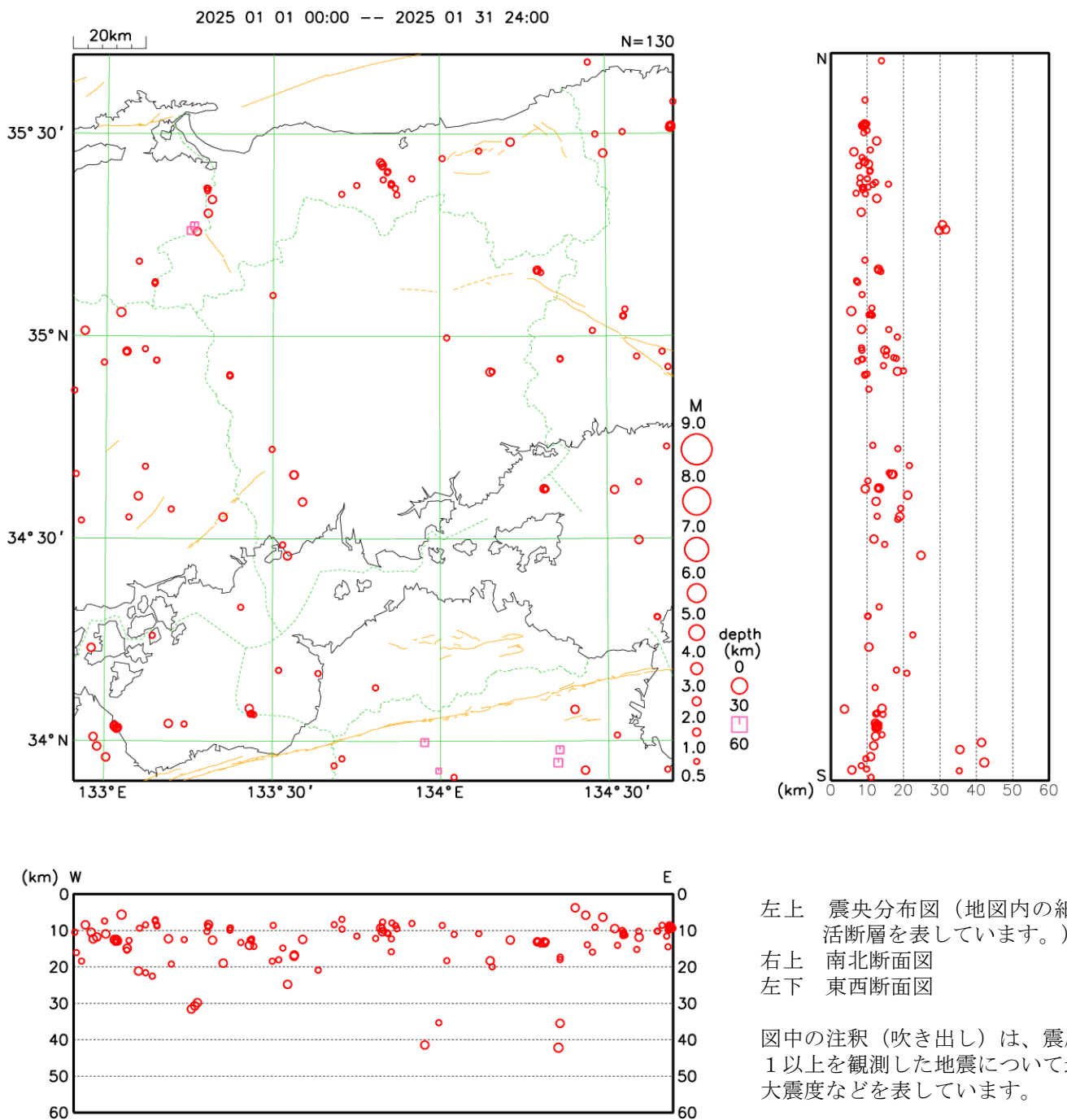
○岡山県及びその周辺の地震活動（1月）	
震央分布図及び断面図	… 1
概 況	… 1
岡山県において震度1以上を観測した地震の表	… 2
岡山県において震度1以上を観測した地震の震度分布図	… 3
○地震防災メモ No.229	
南海トラフ地震の発生確率値が更新されました	… 4

- 「岡山県の地震」は、月1回発行し、岡山県及びその周辺の地震活動をお知らせするとともに、適宜、社会的関心の高い地震について解説します。また、「地震防災メモ」により地震、津波に対する防災知識の普及等に努め、皆様のお役に立つことを目的としています。
- この資料の震源要素、震度データは、再調査されたあと修正されることがあります。
- 本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。
また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

岡山地方気象台

岡山県及びその周辺の地震活動(1月)

震央分布図及び断面図



概況

1月の概況

- ・ 1月に震度1以上の揺れが観測された、上図の範囲内の地震は0回（前月：2回）でした。
- ・ 岡山県で震度1以上の揺れが観測された地震は1月中は1回（前月：2回）あり、そのうち震央が上図の範囲内の地震は0回、範囲外の地震は1回でした。

岡山県において震度1以上を観測した地震の表(1月)

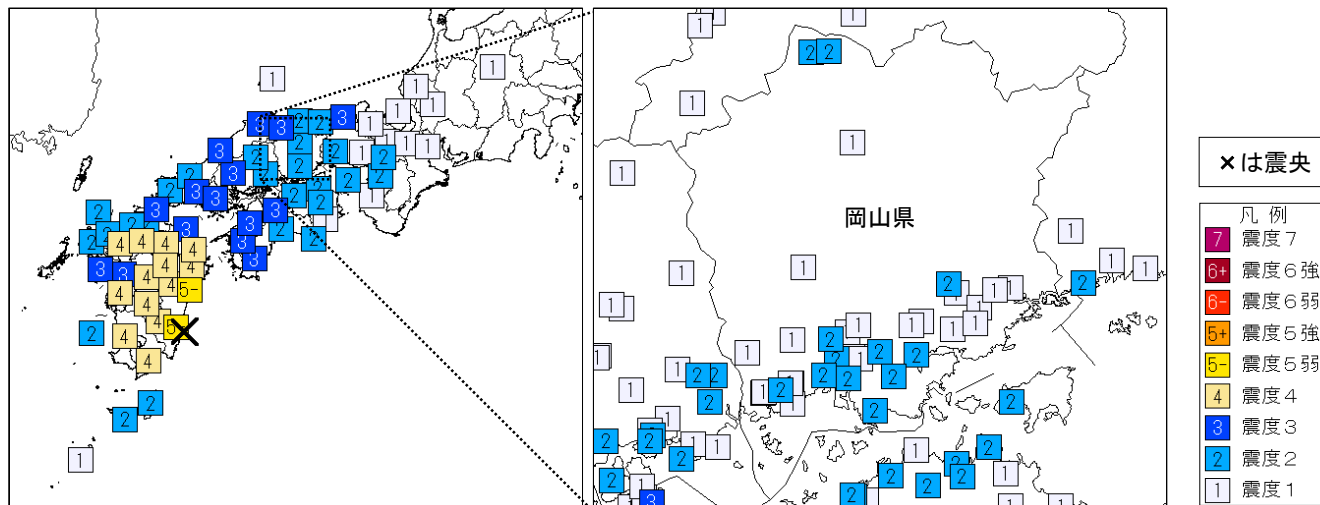
2025年01月13日21時19分 日向灘		31° 49.7' N 131° 34.2' E 35.7km M6.6
----- 地点震度 -----		
岡山県	震度 2:	真庭市蒜山下福田*,真庭市蒜山上福田*,倉敷市真備町*,倉敷市児島小川町*,倉敷市水島北幸町*,倉敷市玉島阿賀崎*,倉敷市船穂町*,早島町前潟*,里庄町里見*,赤磐市上市,岡山南区片岡*,岡山南区浦安南町*
	震度 1:	真庭市久世*,倉敷市新田,倉敷市沖*,倉敷市白楽町*,笠岡市殿川*,笠岡市笠岡*,井原市井原町*,総社市地頭片山*,総社市清音軽部*,高梁市松原通*,備前市伊部,備前市東片上*,矢掛町矢掛*,瀬戸内市邑久町*,瀬戸内市長船町*,浅口市天草公園,浅口市寄島町*,浅口市鴨方町*,岡山北区桑田町,岡山中区浜*,岡山東区瀬戸町*,岡山東区西大寺南*

- 注) 1 内容は暫定値であり、後日再調査のうえ、修正されることがあります。
なお、地震データの確定値は『気象庁地震・火山月報（カタログ編）』に掲載されます。
- 2 地名に*印を付したものは、岡山県又は防災科学技術研究所の震度観測点によるものです。
なお、震度は気象庁震度階級表によるものです。

岡山県において震度1以上を観測した地震の震度分布図(1月)

2025年 1 月13日21時19分 日向灘の地震

岡山県及び周辺観測点の震度分布



<地震の概要>

13日21時19分 日向灘の地震（深さ36km、M6.6）により、宮崎県高鍋町・新富町・宮崎市で震度5弱を観測したほか、東海・甲信越・北陸・近畿・中国・四国・九州地方にかけて震度4～1を観測しました。岡山県では、真庭市、倉敷市、早島町、里庄町、赤磐市、岡山市で震度2、笠岡市、井原市、総社市ほかで震度1を観測しました。

この地震により、宮崎県の宮崎港（国土交通省港湾局）で最大23cm※の津波を観測したほか、鹿児島県、愛媛県、高知県にかけて津波を観測しました。

※津波の高さは検潮所での高さで暫定値です。後日精査のうえ、変更されることがあります。

南海トラフ地震の発生確率が更新されました

政府の地震調査委員会は、主要な活断層や海溝型地震を対象に、地震の規模や一定期間内に地震が発生する確率を予測し、「地震発生可能性の長期評価」(長期評価)として発表しています。長期評価は毎年1月1日を基準に算出し、公表されます。

このうち、海溝型地震における評価対象の一つである南海トラフ沿いで発生するマグニチュード8～9クラスの地震(いわゆる、「南海トラフ地震」)については、今後30年以内に発生する確率が、これまでの「70～80%」から「80%程度」に引き上げられました。

南海トラフの地震(第2版)の発生確率値の更新前後の比較(算定基準日 R7.1.1)

	2024年1月1日時点の評価	2025年1月1日時点の評価	海溝型地震のランク分けの凡例	
M8～M9クラス	Ⅲ * ランク	Ⅲ * ランク	ランク分け	30年以内の地震発生確率
平均発生間隔	88.2年		Ⅲランク	(高い) 26%以上
ばらつきα	0.20-0.24		Ⅱランク	(やや高い) 3～26%未満
経過率	0.88	0.90	Ⅰランク	3%未満
10年	30%程度	30%程度	Ⅹランク	地震発生確率が不明(過去のデータが少ないため確率の評価が困難)
20年	60%程度	60%程度	算定基準日における地震後経過率が0.7以上である海溝型地震についてはランクに「*」を付記する。	
30年	70～80% (74～81%)	80%程度 (75～82%)		
40年	90%程度	90%程度		
50年	90%程度もしくはそれ以上	90%程度もしくはそれ以上		
100年	90%程度以上	90%程度以上		
300年	90%程度以上	90%程度以上		

◆ランク分けについて

上の表内に「Ⅲ * ランク」とあります。「Ⅲランク」は今後30年以内の地震発生確率が26%以上と発生確率が「高い」ランクにあたります。また、「*」は前回の地震からの経過率が0.7以上の場合に付けられます。経過率は1に近いほど次の地震が迫っていることを示します。次の地震までの間隔は「時間予測モデル」を用いて推定した場合、88.2年です。前回の南海のトラフ地震は1946年12月21日に発生した昭和南海地震で、そこから88.2年が経過すると経過率が1.0となります。

◆地震発生確率をどのように捉えるか

今回発表された、地震発生確率が「80%程度」という数字はどのように捉えるべきでしょうか。地震発生確率は、細かな値に捉われないよう数字の一桁の位を四捨五入して発表されます。詳細な算定値は、昨年が「74～81%」、今年 は「75～82%」です。昨年と比べて確率が10%上がったわけではありません。

しかし、地震発生確率70%や 80%といった数字はいつ地震が起きてもおかしくない数字です。南海トラフ地震は必ず来る、という視点に立ち、いつ地震が発生しても対応できるよう、機会を捉え日頃からの備えを再確認することが大事です。

○令和7年1月15日 地震調査委員会公表「長期評価による地震発生確率値の更新について」
https://www.static.jishin.go.jp/resource/evaluation/long_term_evaluation/updates/prob2025.pdf
○ばらつきαや平均発生間隔等について詳しく知りたい場合は、平成25年5月24日 地震調査委員会公表「南海トラフの地震活動の長期評価(第2版)について」をご覧ください。
https://www.jishin.go.jp/main/chousa/13may_nankai/index.htm